

# 業績ハイライト（単体）

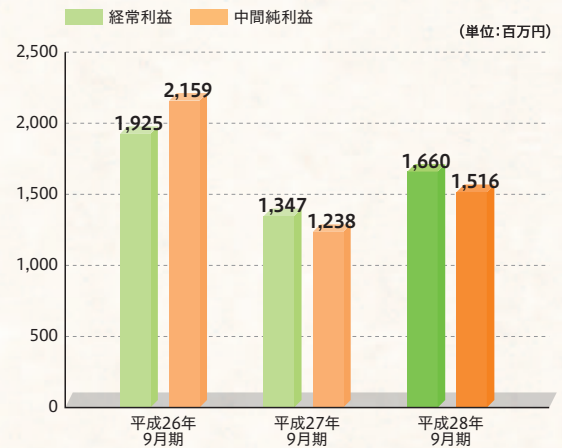
## コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益及び役務取引等利益の減少に加え、経費の増加などから、前年同期比4億21百万円減少の12億89百万円となりました。



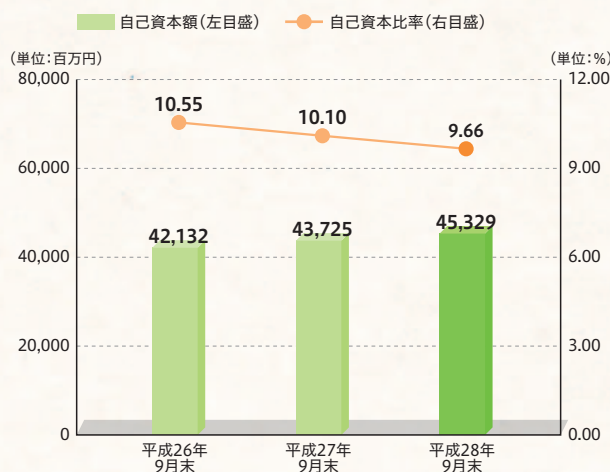
## 経常利益・中間純利益の状況

経常利益は、前年同期比3億13百万円増加の16億60百万円、中間純利益は、前年同期比2億78百万円増加の15億16百万円となりました。



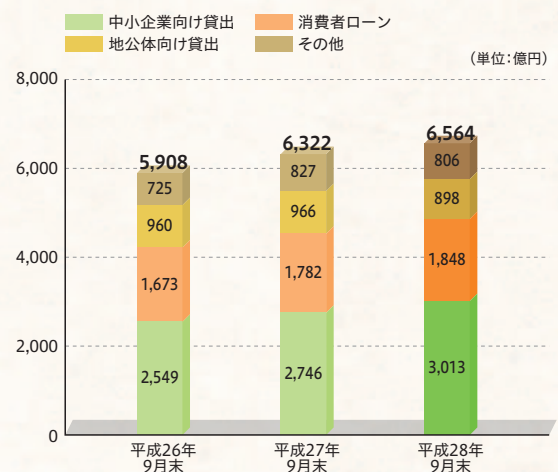
## 自己資本比率の状況

自己資本比率は、中間純利益を15億16百万円計上し、自己資本額（分子）が増加しましたが、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、平成27年9月末比0.44ポイント低下の9.66%となりました。



## 貸出金の状況

貸出金残高は、お客さまの様々な資金需要への積極的な対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン、個人ローンが増加したことなどから、平成27年9月末比242億9百万円増加の6,564億41百万円となりました。

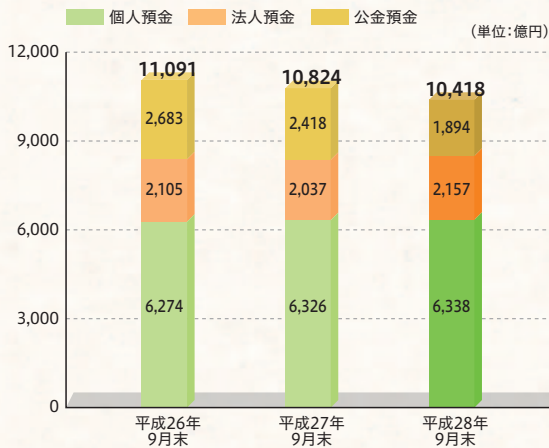


### 用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。

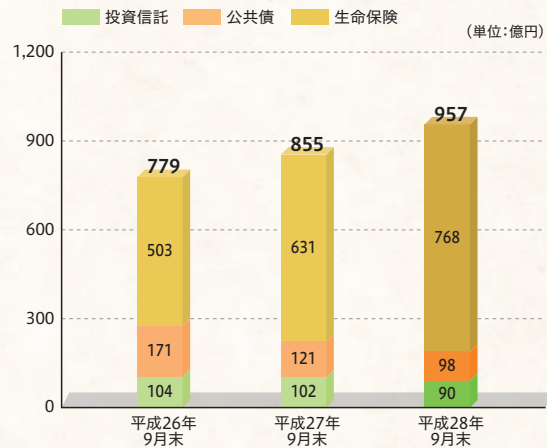
## 預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、公金預金等の減少により、平成27年9月末比406億45百万円減少の1兆418億1百万円となりました。



## 預かり資産の状況

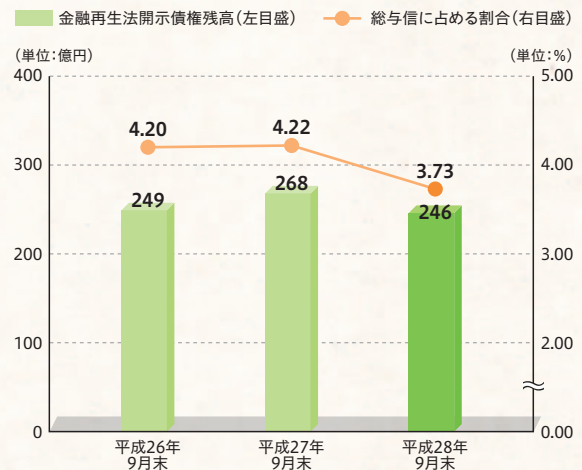
預かり資産残高は、お客さまの資金運用ニーズへの対応により、生命保険残高が増加したことなどから、平成27年9月末比102億31百万円増加の957億51百万円となりました。



## 金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成27年9月末比22億39百万円減少の246億42百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成27年9月末比0.49ポイント低下の3.73%となりました。

## 金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



- 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。